

問 衝突損害ハ如何ナル程度マデ賠償ノ義務アルベキカ
 答 所有者ニ過失アラザレバ當時ノ船舶運送貨及ビ船舶所有者ノ船舶ニ付
 有スル債權ヲ悉ク委付スルニ於テハ其責ヲ危ル、コトヲ得マス如何ニ
 損害大ナルモ其以外ニ及ボスコトハアリマセン

問 衝突ノ損害ハ何年タツテモ請求シ得ベキモノデアルカ
 答 一ケ年ヲ經過スレバ時効ニヨリ消滅シマス

問 衝突ノトキ船長ガ第一着ニナスベキハ如何ナルコトカ
 答 兩船引離スモ危険ナキヤ否ヤヲ確認シ危険ナキトキハ速力ニ引離シテ
 自船ノ被リタル損害ノ状態漏水ノ如何ヲ檢スルコトアリマス

問 踵テ如何ナルコトヲナスカ
 答 自船ニ急迫ノ危険ナキトキハ及ブ限リ他船ヲ救助シ又我船名船籍發着
 港等ヲ通知シテ他船ノ船名船籍發着港等ヲ聞キ取置カネバナリマセン

問 若シ救助ヲナサオ船名ヲモ通知セザルトキハ如何ナル制裁アルカ
 答 船員法第五十三條ニ依リ處分ヲ受ケネバナリマセン

問 豫防法ノ規定中地方廳ノ制定シタル港灣湖川等ニ係ル地方取締規則ト
 抵觸アル場合ハ如何スベキヤ
 答 地方長官ニ於テ特ニ制定シタルモノナルトキハ其規則ヲ遵守シテ差支
 ヘナキコトハ本法ノ認ムル所デアリマス所謂特別法ハ普通法ニ勝ルノ
 効力アルノデアリマス

問 點燈信號ニ就キ例外ノ場合アルカ
 答 艦隊列ヲナシテ航行シ又ハ運送船カ軍艦ニ護送セララル、トキ杯ニ用フ
 ル列位燈及信號燈ヲ揭示シタリ又ハ政府ノ許可ヲ受ケ登簿公告ノ手續
 ヲ經タル識別信號ヲ使用スルハ本法ニ於テ是認シ居ル所デアリマス

問 大阪府水路取締規則中ノ航法ハ如何
 答 一 航路及港筋ニ於テハ其右側ヲ航行スベシ

二 航路及濬筋ニ於テハ他船ト並航スベカラズ

三 航路及濬筋ニ於テ行逢フトキハ互ニ右方ニ避クベシ若シ之ニ依リ

難キ場合ハ上リ船ニ於テ避讓スベシ

四 航路及濬筋ヲ横切ラントスル船舶ハ上リ船又ハ下リ船ニ對シ避讓スベシ

五 汽艇發動機艇舳船端艇其他櫓權ヲ以テ航行スル船舶ハ汽船及帆船ニ對シ避讓スベシ

六 航路ノ屈角埠頭棧橋又ハ碇泊船ニ接シ回航スルトキハ之ヲ右舷ニ見テ航行スルモノハ小廻リヲ爲シ左舷ニ見テ航行スルモノハ大廻リヲ爲スベシ

前項ハ之ヲ筏ニ準用ス

問 開港港則施行規則ニアル航法ハ
答 汽船防波堤入口ニ於テ出會ノ虞アルトキハ入港船ハ防波堤外ニ於テ出

航船ノ進路ヲ避クベシ

汽船ハ港界内及港界附近ニ於テハ他船ニ危害ヲ及ボヤザル程度ニ速力

ヲ減ジテ航行スヘシ

帆船ハ港界内ニ於テハ帆ヲ減ジ又ハ曳船ヲ用キテ航行スベシ但シ航路

内横濱港東水堤燈臺及北水堤燈臺附近門司港界内及長崎女神内ニ於テ

ハ縫行スベカラズ

船舶ハ竝列シテ航行スベカラズ

航路ヲ横切ラントスル船舶ハ航路ヲ航行スル他船ノ進路ヲ避クベシ

航路ニ於テ行違ヒタル船舶ハ互ニ航路ノ右側ヲ航行スベシ

船舶ハ航路ニ於テ他船ヲ追越スヘカラズ

雜種船ハ汽船及帆船ノ進路ヲ避クベシ

船舶ハ防波堤埠頭又ハ繫留船等ノ一端ヲ右舷ニ見テ通航スルトキハ之

ニ近寄り左舷ニ見テ通航スルトキハ之ニ遠ザカリテ航行スベシ

本章ニ定ムルモノノ外船舶ノ航法ニ關シテハ海上衝突豫防法ノ定ムル所ニ依ル

海上衝突豫防法問答終

逓信省令第三號

◆内海水道航行規則 左ノ通り定ム

昭和四年二月一日

第一條 本令ハ備讚瀬戸、來島海峽及下關海峽ニ於ケル船舶ニ之ヲ適用ス
 本令ニ於テ備讚瀬戸、來島海峽及下關海峽トハ左ノ水域ヲ謂フ
 備讚瀬戸 男木島燈臺ヨリ豊島ノ南端、大槌島ノ頂、小與島ノ南端、本島シヨケン
 鼻及黒鼻、佐柳島ノ南西端、二面島ノ頂、高見島板持鼻、沖ノ洲掛燈浮標、牛島
 九五米山ノ頂、三ツ子島燈臺、小瀬居島ノ頂及小槌島ノ頂ヲ經テ男木島ノ南端ニ引
 キタル線ニ依リ圍マルル水域
 來島海峽 蒼社川口ノ東岸ヨリ大島タケノ鼻ニ引キタル線竝ニ大下島アゴノ鼻ヨリ梶
 取鼻及大島宮ノ鼻ニ引キタル線ニ依リ圍マルル水域但シ今治ノ港域ヲ除ク
 下關海峽 部崎燈臺ヨリ四十五度(眞方位)ニ海里ノ點ヨリ部崎燈臺及滿珠島ノ頂ニ
 引キタル線、滿珠島ノ頂ヨリ串崎ニ引キタル線竝ニ合良島ノ頂ヨリ臺場鼻及堺鼻ニ
 引キタル線ニ依リ圍マルル水域但シ門司、下關及若松ノ港域ヲ除ク
 第二條 船舶ハ左ノ各號ノ場合ヲ除ク外航路筋ニ於テ碇泊又ハ停留スルコトヲ得ズ

内海水道航行規則

- 一、衝突其ノ他急迫ノ危険ヲ避ケムトスルトキ
- 二、運轉自由ヲ得ザルトキ
- 三、人命又ハ船舶ノ救助ニ從事スルトキ
- 四、海底電信電話線又ハ航路標識ノ工事ニ從事スルトキ
- 五、水路ノ測量又ハ浚渫作業ニ從事スルトキ
- 六、所轄官廳ノ許可ヲ得テ難破物又ハ沈没物等ノ引揚其ノ他海中ノ工事ニ從事スルトキ

前項第二號乃至第五號ノ船舶畫間ニ於テ航路筋ニ碇泊スルトキハ法令ニ特ニ規定セ
ル場合ヲ除クノ外最見易キ場所ニ黑球又ハ黒色ノ形象一箇ヲ掲グベシ

第一項第六號ノ船舶畫間ニ於テ航路筋ニ碇泊スルトキハ最見易キ場所ニ紅色ノ方旗
ヲ掲グベシ

前三項ノ規定ハ漁撈中ノ漁船ニハ之ヲ適用セズ但シ備讚瀬戸中小與島ノ南端ヨリ小
瀬居島ノ頂ニ引キタル線以西ノ水域、來島海峽及下關海峽ニ於テハ漁撈中ノ漁船ヨ
リ通航船舶ノ進路ヲ避クルコトヲ要ス

第三條 船舶ハ安全ニ替リ行ク餘地ヲ有スル場合ニ非ザレバ他ノ船舶ヲ追越スコトヲ
得ズ

汽船他ノ汽船ノ右舷側ヲ航行シテ追越サムトスルトキハ汽笛又ハ汽角ヲ以テ一長聲
ニ引續キ一短聲ヲ、其ノ左舷側ヲ航行シテ追越サムトスルトキハ一長聲ニ引續キ二

短聲ヲ發スベシ

第四條 海上衝突豫防法第七條第一項第三號、第四號、同第九條第一項及同第十條第
一項ノ規定ニ依リ臨機ニ表示スルヲ以テ足ル船燈ハ第一條ノ水域航行中ノ船舶ニ限
リ常ニ之ヲ掲ゲ置クベシ

第五條 汽船ハ備讚瀬戸ニ於テハ左ノ航法ニ依ルベシ

- 一 島嶼岬角等ノ爲前面ヲ望見スルコト困難ナル場所ニ於テハ其島嶼岬角等ヲ右舷
ニ見ル汽船ハ之ニ近寄り左舷ニ見ル汽船ハ之ニ遠ザカリテ航行スルコト
- 二 波節岩ハ東行又ハ西行スル汽船ハ之ヲ左舷ニ見テ航行スルコト

第六條 汽船ハ來島海峽ニ於テハ左ノ航法ニ依ルベシ
一 中水道ハ順潮ノ場合ニ限り又西水道ハ逆潮ノ場合ニ限り通航スルコト但シ小島
波止濱間ノ水道ヲ通航スル汽船ハ順潮ノ場合ト雖西水道ヲ通航スルコトヲ妨ゲ
ズ

- 二 前號ノ規定ニ依リ中水道ヲ通航スル汽船ハ龍神島、津島及アゴノ鼻ニ近寄り又
西水道ヲ通航スル汽船ハ之ニ遠ザカリテ航行スルコト即チ行逢汽船ニ在リテハ
南流ニ於テ互ニ右舷ヲ北流ニ於テ互ニ左舷ヲ相對シテ航過スルモノトス
- 三 第一號但書ノ規定ニ該當スル汽船ハ海峽ノ西側(今治港防波堤燈臺、大瀆燈臺、
來島白石燈標)ニ近寄りテ航行スルコト

中水道又ハ西水道ヲ通航スル汽船ハ轉流時ニ在リテハ一ノ瀬鼻又ハ龍神島ニ竝航シ

内海水道航行規則

タルトキヨリ中水道又ハ西水道ヲ通過シ終ル迄汽笛又ハ汽角ヲ以テ數回左ノ信號ヲ爲スベシ

四

中水道通航汽船 一長聲
西水道通航汽船 二長聲

小島波止瀨間ノ水道ヲ通航スル汽船ハ來島又ハ龍神島ニ竝航シタルトキヨリ西水道ヲ通過シ終ル迄汽笛又ハ汽角ヲ以テ數回三長聲ヲ發スベシ

第七條 前條ノ潮流ノ流向ニ付テハ中渡島潮流信號所ノ潮流信號ニ又之ニ依リ難キ場合ハ水路部刊行ノ潮流表ニ依ルモノトス

第八條 汽船ハ下關海峽ニ於テハ左ノ航法ニ依ルベシ

一 東口ヨリ西行スル汽船ハ火ノ山ノ頂ヨリ嵩ケ集鼻ニ引キタル線ニ達スル前門司埼燈標ヨリ滿珠島ノ頂ニ引キタル線以北ノ水域ニ入ルコト又東口ニ向ケ東行スル汽船ハ下關高燈ヨリ三角山ノ頂ニ引キタル線ニ達スル前門司埼燈標ヨリ巖流島燈臺ニ引キタル線以北ノ水域ニ入ルコト

二 南水道ヨリ西行スル汽船又ハ南水道ニ向ケ東行スル汽船ハ前號ノ規定ニ拘ラズ相互危險ナク通航シ得ル限度ニ於テ出來得ル限リ門司埼ニ近寄りテ航行スルコト(若シ門司埼ニ近寄りテ航行シ能ハザルトキハ前號ノ規定ニ依リテ航行スルコト)

三 第一號ノ汽船行達ヒタルトキハ互ニ左舷ヲ相對シテ航過スルコト

四 潮流ニ遡リ早瀬瀬戸(柁ヶ鼻ヨリ下關低燈ニ引キタル線及鷗ヶ鼻ヨリ火ノ山ノ頂ニ引キタル線ニ依リ圍マル水域)ヲ通航スル汽船ハ潮流ノ速度(水路部刊行潮汐表及下關海峽潮流圖ニ依ル)ヲ超ヘ一時間三海里以上ノ速度ヲ保ツコト

五 下關高燈附近ト山底ノ鼻附近トノ間ニ於テハ航行ニ因リ生ズル波浪ノ爲海難其ノ他ノ事故ヲ生ゼザル程度ノ速力ニテ航行スルコト

帆船ハ早瀬瀬戸ニ於テハ縫航スベカラズ
第九條 船舶ハ船首ヲ回轉スル爲下關海峽ニ於テ投錨スルトキハ晝間ニ在リテハ黑球又ハ黑色ノ形象一箇ヲ、夜間ニ在リテハ海上衝突豫防法ニ規定スル船燈ニ加ヘテ紅燈一箇ヲ最見易キ場所ニ掲グベシ

第十條 門司港、下關港又ハ若松港ヨリ出港シタル汽船ニシテ下關海峽ノ東口ニ向ケ航行スルモノハ萬國船舶信號旗Eヲ、又西口ニ向ケ航行スルモノハ同Wヲ各下關海峽ノ航路筋ニ入ル迄前檣又ハ其附近ノ最見早キ場所ニ掲グベシ但シ平水航路ヲ航路定限ト爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

門司港、下關港又ハ若松港ニ入港スル汽船ハ前檣又ハ其附近ノ最見易キ場所ニ左ノ各號ノ規定ニ依リ萬國船舶信號旗ヲ掲グベシ但シ平水航路ヲ航路定限ト爲スモノハ此ノ限ニ在ラズ

一 門司港ニ入港スルモノニシテ錨地指定ニ關スル特定信號ヲ掲グザルモノ

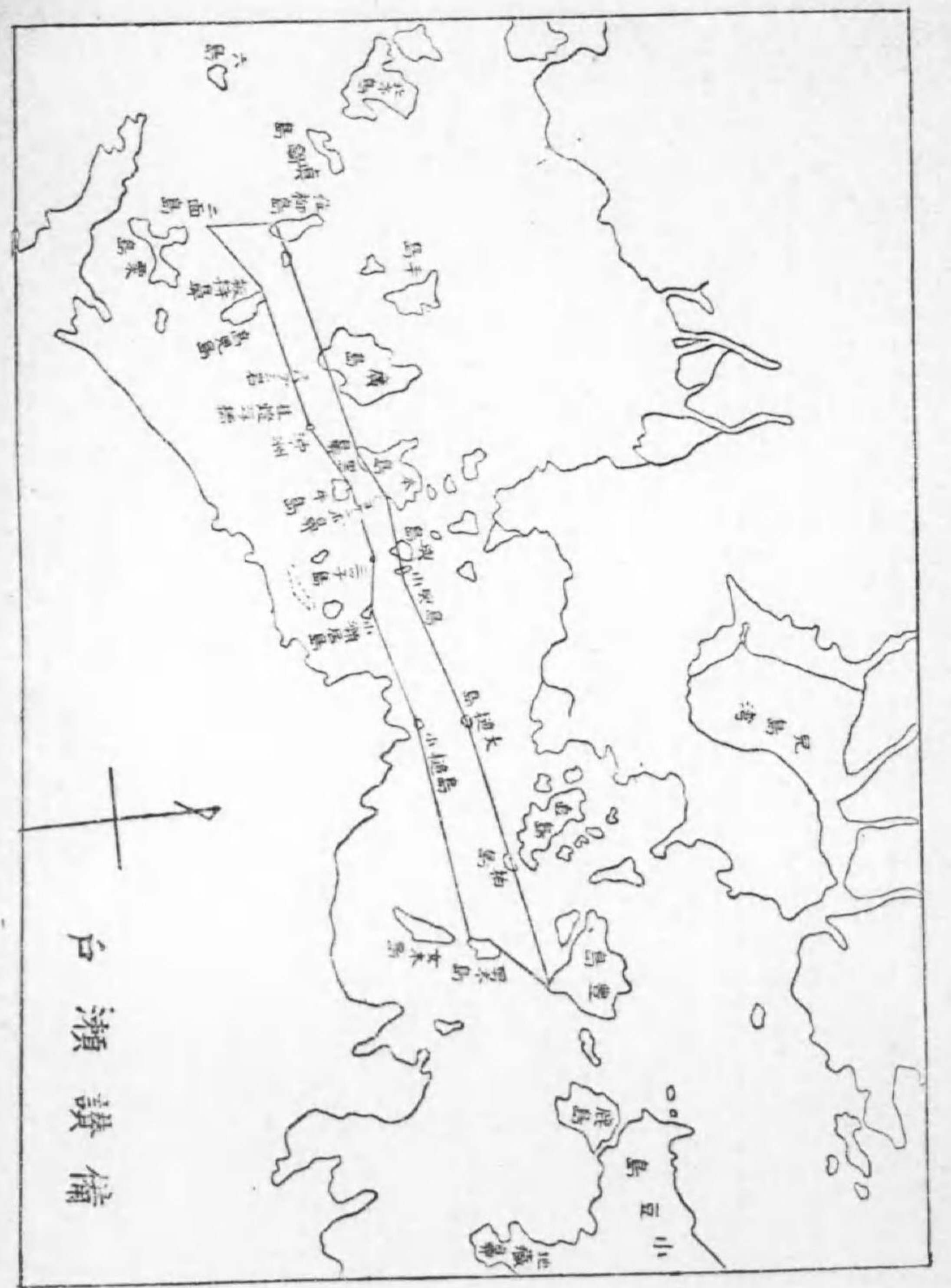
内海水道航行規則

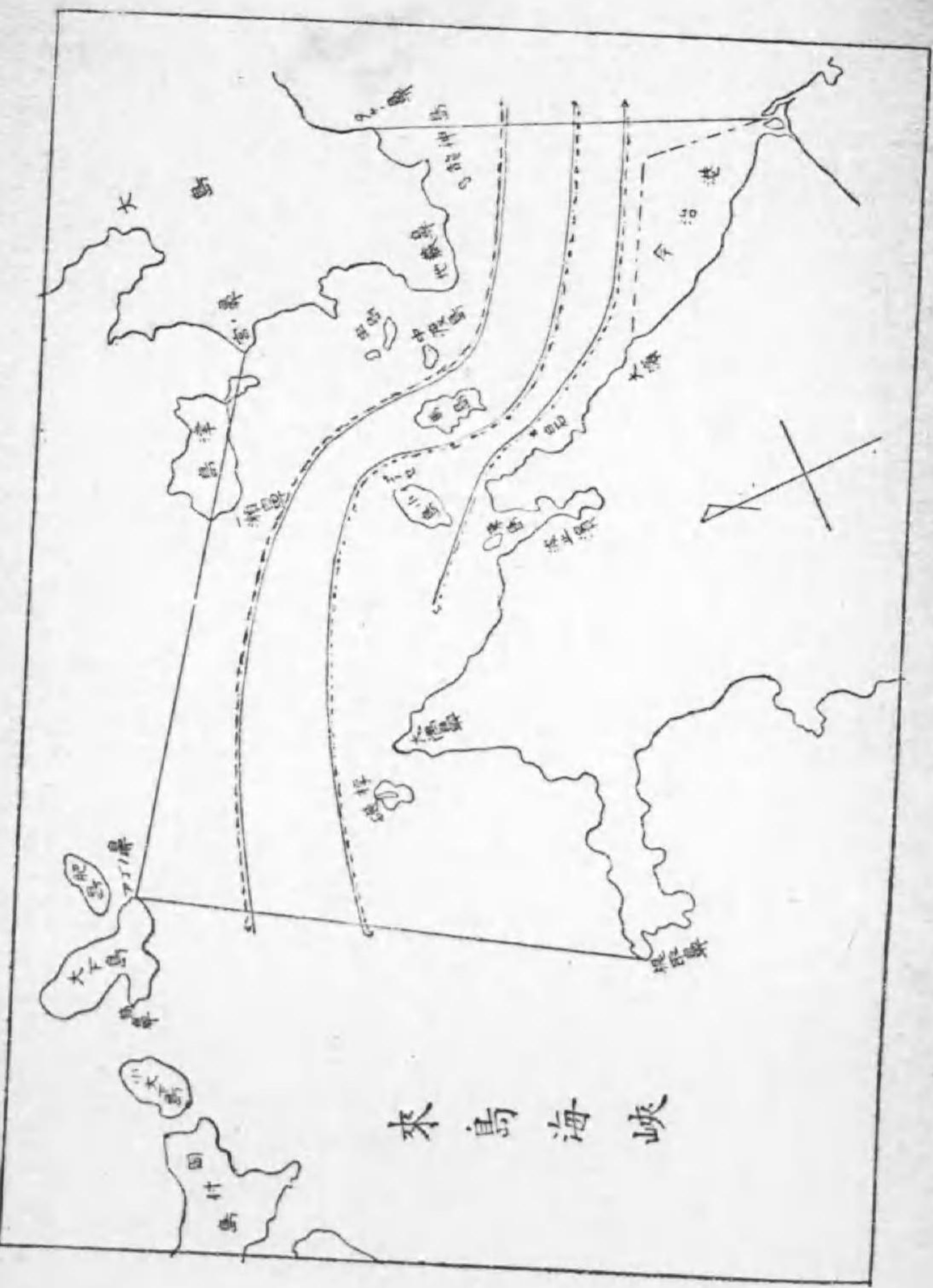
五

- 二 壇ノ浦燈臺―山底ノ鼻間 J 旗
- 壇ノ浦燈臺―山底ノ鼻間 X 旗
- 三 若松港ニ入港スルモノ Y 旗
- 山底ノ鼻―臺場鼻間

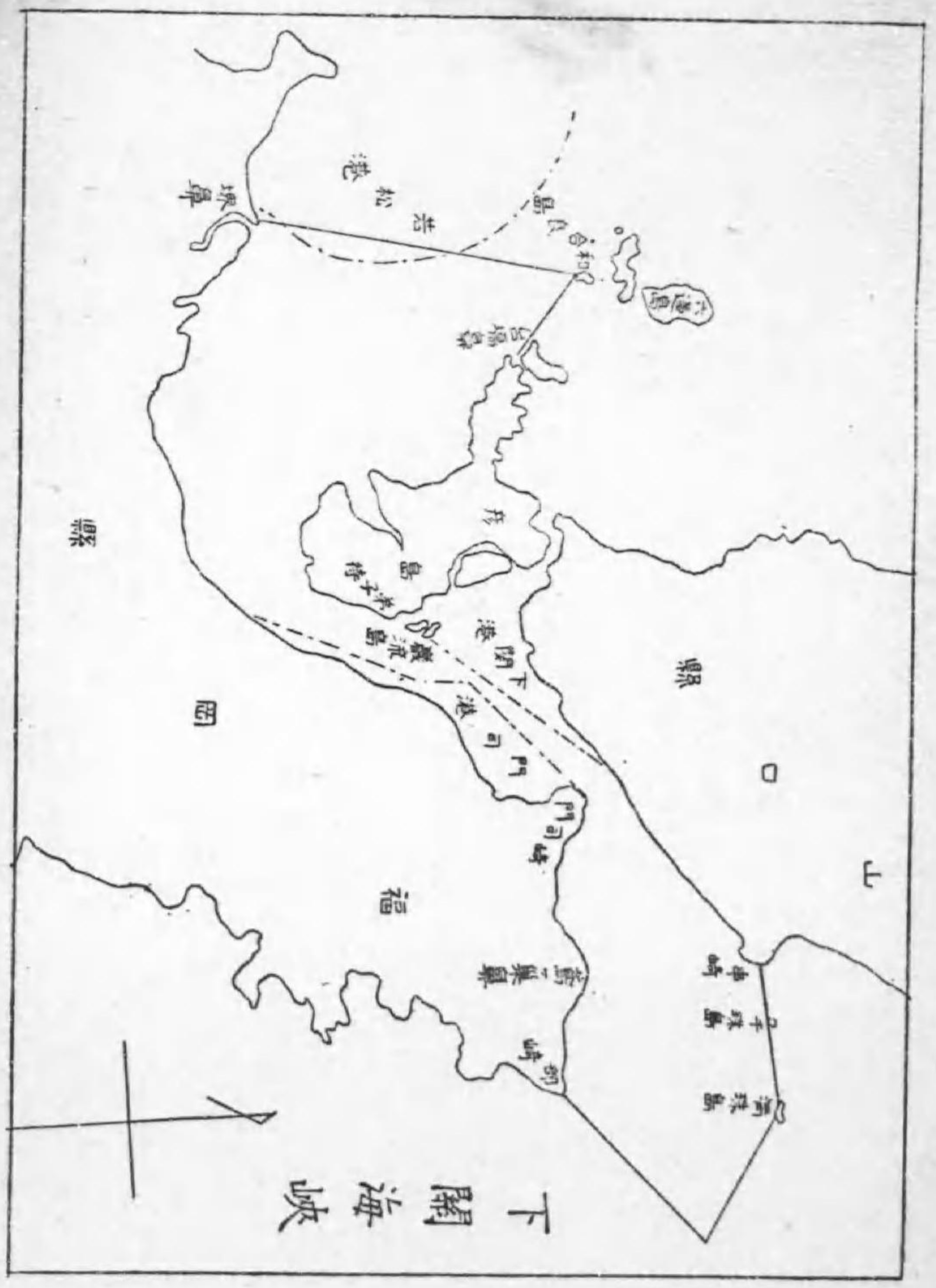
附 則

本令ハ昭和四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

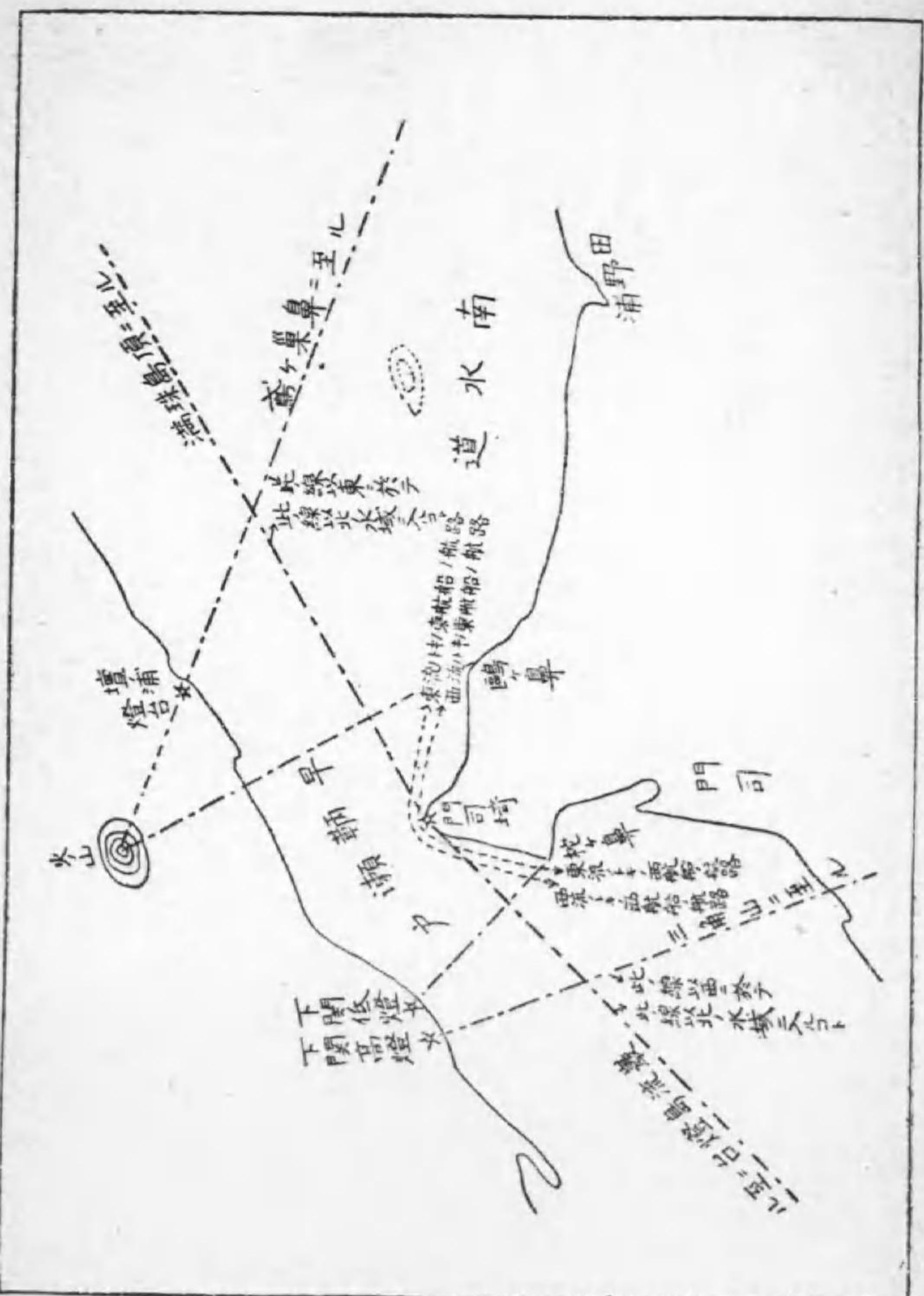




來島海峡



下關海峡



明治三十九年七月五日 發行
 昭和四年十一月十五日三十四版

定價六十錢

發行者兼 著作者 海士學館

印刷者 十河清

發行所 中山海士學館

大阪府西區京町堀通一丁目十六番地
 電話 西二〇九番

發行者ノ許
 諾ヲ得ズシ
 テ本書ノ複
 製ヲ禁ズ

發賣所

同 同
 大阪市東區南本町四丁目
 大阪市港區北境川町
 神戸市元町通三丁目

三宅莊藏
 境川文庫
 賀集海文堂

終